

《履修上の留意事項》施設見学や実習、卒業後の実務場面を想定した実践的学修項目と学習方法を提供する。学生は受動的に「講義を聞く」「聞いてわかる・知る」ことを目的とすることなく、毎回行われる疑似体験課題や教員との対話などの実践的トレーニング学習に積極的に参加し、行動し発言することが期待されている。

《担当者名》長谷川 聡（非） haseg@hoku-iryo-u.ac.jp

【概要】

実習およびその関連科目学習に際して必要な、患者・利用者・家族・住民・職員とのコミュニケーション・スキルに関する知識と技術について、講義と実践的課題学習を通して基礎から学ぶ科目である。

【学修目標】

- 1) 介護専門職に必要なコミュニケーション・スキルと人間関係について理解するために、ロールプレイや課題解決による対人コミュニケーション訓練を体験する。
- 2) 「コミュニケーションへの配慮」、「傾聴的態度」、「ことばの介助」を説明して実践できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	シラバスと学修方法を説明できる。 学生の個別学習ニーズを検討する。	長谷川
2	オンライン・コミュニケーション1	ビデオ通話の要素と特性について検討する。	長谷川
3	オンライン・コミュニケーション2	動画コンテンツの意味と表現について検討する。	長谷川
4	オンライン・コミュニケーション3	音声コンテンツの意味と表現について検討する。	長谷川
5	ヘルス・コミュニケーション1	患者＝医療者関係のコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
6	ヘルス・コミュニケーション2	相互理解を促進するコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
7	ヘルス・コミュニケーション3	行動変容を促進するコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
8	ヘルス・コミュニケーション4	情報提供のためのコミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
9	ヘルス・コミュニケーション5	リスク・コミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
10	ケアリング・コミュニケーション1	コミュニケーションの原理と基本事項について検討する。	長谷川
11	ケアリング・コミュニケーション2	ケアリングとケアリング・コミュニケーションの基本事項と概要について検討する。	長谷川
12	ケアリング・コミュニケーション3	「声かけ」技能を体験して、その気泡・方法・価値について検討する。	長谷川
13	ケアリング・コミュニケーション4	「一往復半」技能を体験して、その気泡・方法・価値について検討する。	長谷川
14	ケアリング・コミュニケーション5	「非言語コミュニケーション」技能を体験して、その気泡・方法・価値について検討する。	長谷川
15	ケアリング・コミュニケーション6	「傾聴・受容と共感」技能を体験して、その気泡・方法・価値について検討する。	長谷川
16	介護コミュニケーション概説1	介護コミュニケーションの意味・目的・価値について検討する。	長谷川
17	介護コミュニケーション概説2	対象理解とコミュニケーションへの配慮の意味・目的・価値について検討する。	長谷川
18	対象別コミュニケーション配慮1	高齢者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
19	対象別コミュニケーション配慮 2	傷病者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
20	対象別コミュニケーション配慮 3	認知症者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
21	対象別コミュニケーション配慮 4	聴覚障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
22	対象別コミュニケーション配慮 5	視覚障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
23	対象別コミュニケーション配慮 6	言語障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
24	対象別コミュニケーション配慮 7	精神障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
25	対象別コミュニケーション配慮 8	知的障害者の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
26	役割別コミュニケーション配慮 1	要介護者家族の特性とそのコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
27	役割別コミュニケーション配慮 2	地域におけるコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
28	役割別コミュニケーション配慮 3	多職種連携におけるコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
29	役割別コミュニケーション配慮 4	職場におけるコミュニケーションへの配慮について検討し、説明・実践できる。	長谷川
30	総括と振り返り	介護コミュニケーション論を総括し、その要点を振り返り再度検討する。	長谷川

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

リアクション・シート20%、単元課題20%、期末課題60%。

【教科書】

(前期使用) 「保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門」石川ひろの著 大修館書店

(後期使用) 「介護初任者研修テキスト2 コミュニケーション技術と老化・認知症・障害の理解」小池将文・森繁樹監修 日本医療企画

教科書は前・後期で異なるが、両方とも前期開始時に入手しておくことが望ましい。

【備考】

Google Classroom, Google Driveを用いた遠隔授業教材・課題を用意している。Classroomのストリームを講義進行に合わせて逐次公開するので積極的に活用してオンライン自習することが期待されている。

教科書は前・後期で異なるが、前期開始時に両方とも入手しておくことが望ましい。

【学修の準備】

前・後期各期の教科書を事前に通読し、読めない漢字を調べてルビを振る、ノートを作るなどして読めるようにしておくこと。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP1,4

【実務経験】

行政職員(福祉技術職)

【実務経験を活かした教育内容】

相談機関・医療機関での実務経験を活かし、傷病者・障害者とその家族の相談やケアの方法、あるいは関連機関・関連職種・地域住民とのコミュニケーションスキルを身につける。